みんなのこころのよりどころ

ホッとステーション

2023年度 WAM助成金事業（2年目）
（地域連携活動支援事業）

WAM助成
独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

チーバくん
ちばSDGs
ちばSDGsパートナー191号

ホッとステーション
みんなの心のよりどころ

（事務局）
特定非営利活動法人リンク

目次

●表紙
●目次
●刊行にあたって　P2
1．ホッとステーションとは　P3
（1）活動趣旨・特徴
（2）ホッとステーションのイメージ　P4

2．ホッとステーションが紡ぐ『多機能型地域づくり』　P5
（1）ホッとST×各種活動
（2）ホッとステーションが地域の資源になるまで
（3）ホッとステーションが繋げる地域づくりネットワーク

3．ボランティア（サポーター）の活躍　P8

4．活動連携の効果　P9
（1）ホッとST×クールST　※発足エピソード含む　P10
（2）ホッとST×子ども食堂（ちいき食堂）　P11
（3）ホッとST×フードバンクさんぶ

5．九十九里沿岸地域合同勉強会／ホッとつながるフェスタ　P12

6．活動の広がり～「さんぶ」から「千葉県全域へ」～　P13

ホッとST一覧・分布図（マップ）　P13

7．ホッとステーション活動の外部視点からの分析・評価　P14

8．ホッとST協同機関紹介　P20

9．参考資料　P21

10．事務局・発行元情報　P24

刊行にあたって

【はじめに・・・】

私たちは日々の生活の中で、それぞれ「居場所」を持っており、それは居心地が良い場所であったり、誰にも知られたくない場所の場合もあります。あるいは居心地の悪い場所に居ざるを得ない人もいると思います。また、身近な地域が安心する人もいれば、プライベートを知られずゆっくりできる場所が安心できるという人もいると思います。それは、「居場所を作ったからみんな集まれ！」というものではなく、「それぞれが居場所と思える場所や人を見つけられる」ことだと思っています。

ですから、本事業は厳密に言えば「居場所づくり」ではなく、「居場所活動の仲間づくり」と「地域の方々が、それぞれにとっての心地良い居場所利用」の普及だと考えています。地域が繋がり、「人と人・機関と機関・地域と地域」が繋がれる活動でありたいと思っています。

（ホッとステーション実行委員会事務局）

1．ホッとステーションとは
（1）活動趣旨・特徴

【活動趣旨】

ホッとステーション事業は、生活のしづらさを抱えた方（孤立・孤独、不登校・ひきこもり、生活困窮者、就労困難者、障がい者、高齢者等）や地域住民誰もが、身近な地域で気軽に安心して過ごせて、時には相談できる場所、社会とのつながりがつくれる地域社会の実現を目的として活動しています。そのために、下記の活動を広めていきます。

①山武圏域や千葉県内のいたるところで『気軽に居てもいい』居場所（ホッとステーション）を、ベンチやのぼり旗、ステッカーを設置して示していただくことで、地域住民が安心して過ごせる場所を伝える（考えを共有し居場所活動を広げる）。

②その中で、相談スポットやボランティアができる場所、ちいき(子ども)食堂やフードバンク活動等を広め、社会交流の場を増やす。

③協同機関のネットワークを構築することで、平時の地域情報共有や機関相互のPR・発災時の協力体制の確保が図れるネットワークを構築する。

【ホッとステーションの特徴】

①市町村単位ではなく、**一人一人の生活圏域を対象**とした事業。

②ホッとステーション（**居場所**）**を基盤**として、**複数の活動を連携**させて実施する事業

③**全世代を対象**とした事業。

④地域の機関・団体が**可能な範囲で**「人・モノ・情報・場所」等の協力をしてもらうことで成り立つ事業。

⑤孤独・孤立、ひきこもり、生活困窮者、就労・居場所等にかかる活動自体を社会資源の一つとして活用する事業。

⑥「ここに集まれ」ではない、「いろんな場所があるよ・よかったら使って」の場所を増やす。

⑦**「利用する人・活用してもらう人(機関)・地域社会」**が相互に**『三方良し』**の関係。

①ステッカー

②のぼり旗

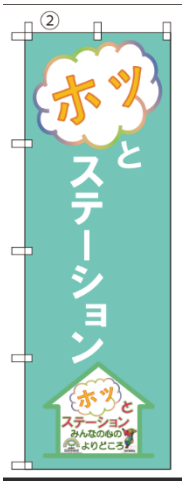
④タペストリー

③ベンチ

（2）ホッとステーションのイメージ

ホッとステーションでどんなところ？

「こども110番の家・お店」みたいなイメージを思い浮かべてみてください。普段は特に活動していませんが、困った時に駆け込んで相談できる場所ですよね。
ホッとステーションは、何かがあってもなくても、気軽にココロが休まる場所と思って休んでもらえる場所や機会の事です。



2．ホッとステーションが紡ぐ『多機能型地域づくり』

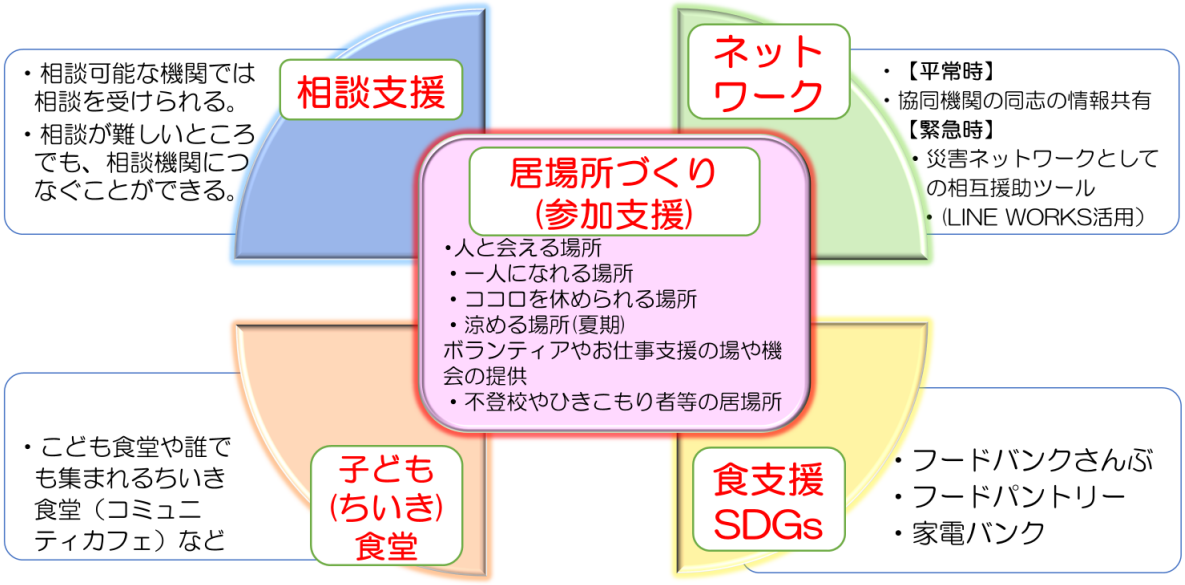
（1）ホッとST×（①相談支援＋②ちいき(子ども)食堂＋③フードバンクさんぶ＋④ひきこもり支援）

地域づくりや地域連携は1つのことでつながっているわけではなく、一人一人、各団体の様々な想いや考え、活動がつながることで構成されています。

例えば、カフェが居場所となっている場合は、カフェの店主さんがひきこもりがちなお客様のお話を聴かせてもらうことで、お客様のストレス解消の一躍になっていたり、そこで地域住民のハンドメイド製品を販売していると、そこでネットワークが出来上がっている。その活動を広報することで、地域資源が広がるきっかけとなる・・・、そんな日常が当たり前のように繋がり合っている。

そんなゆるやかな活動の連続が続いていけるような活動を目指しています。

ホッとステーション体系図 【居場所を活用した多機能活動】



２．ホッとステーションが紡ぐ『多機能型地域づくり』
（２）ホッとステーションが地域の資源になるまで

協同機関ネットワーク

ホッとステーション活動をきっかけに、居場所の必要性や有用性を知ってもらう。

↓

周辺地域が活動に協賛してくれる。

↓

地域に点在することで、活動の連動性が見えるようになる。

↓

活動を続けることで有用性を実感してもらえるようになる。

↓

その居場所がより居心地の良い場所へと進化できる。

地域住民

ホッとステーションのことを見かけたり、人伝いに聞く。

↓

試しに利用してみる。

↓

その場所の評判が広まる。

↓

さらにたくさんの方が利用するようになる。

↓

ホッとステーションが、当たり前のように心のやすらぐ居場所として認識してくれるようになる。

2．ホッとステーションが紡ぐ『多機能型地域づくり』
（3）ホッとステーションが繋げる地域づくりネットワーク

ホッとステーション活動と共にちいき(子ども)食堂、フードバンクさんむ、ひきこもり事業の活動を行っています。

ホッとステーションネットワークで、必要な方々へ食材を届ける事やちいき(子ども)食堂に参加する事で、外へ出る機会になっていたりと、地域の様々な取り組みがつながり合い、新たな出会いや取り組みにつながっています。

それぞれの活動や団体と共に活動を行う事でネットワークが繋がり・広がっていき、より良い環境を作っています。

協同機関ネットワーク

【協同機関連携ツール】
協同機関同士の情報共有のために、ラインワークスを活用して、日々の情報交換・連携を行っています。

【地域への発信】
地域への情報発信として、インスタグラムを活用し、ホッとステーション情報や地域の情報発信を行っています。

Instagram

HOTTO_ST.3637

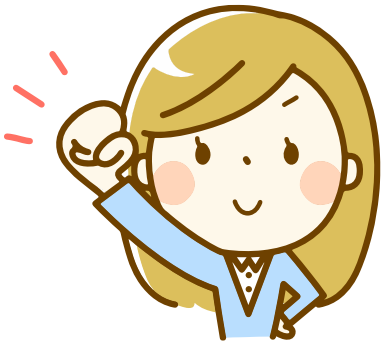
ラインワークスの投稿は、ホッとステーション事業関連に特化したものではありません。協同事業所が、自由にイベント情報を発信してもよい仕組みにもなっています。事務局からのホッとステーション活動報告の他、協同事業所からの地域や個々の事業所で行うイベントの周知や、地域情報の掲載も行われています。

この普段からのつながりと情報共有が、有事（災害等）の発生時に、「実用性のある災害ネットワーク」として、人的・物的協力連携やリアルタイムの情報発信等に大いに役立つと考えています。

3．ボランティア（サポーター）の活躍

「何かやりたい」「地域のために何かしたい」「子どものために何かできる事はあるかな」と考えている方が、一人で、またはいろいろな方と一緒にチャレンジしやすい環境や場所で何かをすることが出来る・・・・

　そんな色々な『何か』をできる場所、見つける場所として、ホッとステーションの活動がきっかけとなることがあります。



「ちいき食堂ほのん」のボランティア

　ちいき食堂ほのんは、色々な場所へ出向き、冬は焼き芋・夏はかき氷、チュロスやベビーカステラ作りなどの提供、フードパントリーなどを行っています。
　その中で、ボランティアの皆さんは準備から片付け、来場者の対応など、自分が出来ることを積極的に行ってくれています。重い機器や細かい備品など、たくさんの備品の搬入や会場づくりなどを手伝っていただいたり、お客様対応もしていただき、とても助かっています。そして何より皆さんの、いきいきして楽しそうな笑顔が会場を明るくしてくれています。

　最初は「役に立てるかな？」と不安がっていた方も、帰りの際には、「何とかちゃんとできた。たくさんありがとうって言われちゃった！」と充実感のある楽しそうな笑顔になっていました。

「フードバンクさんぶ」のボランティア

　毎週月曜日2～3名の方が活動してくれています。ご寄付いただいた食料品の仕分けや米の精米、在庫整理、入出庫の入力作業を行ってもらっています。色々な食料品や野菜やを仕分けしたり、在庫の消費期限等を確認しながら整理を行う事は大変な仕事です。毎月の集計も、ボランティアさんがお手伝いしてくださることで、複数人のチェックが出来るので、正確な在庫管理ができています。

「以前、フードバンクのボランティア体験をしたことがあって、いつか活動の協力ができたらなって思っていたけど、地元で活動できてよかった。フードバンクの取り組みをもって知ってほしいし、一緒に活動してくれる仲間が増えたらいいな。」と思いを伝えてくれました。
　みんなでわいわい楽しみながらの仕事は、時間が過ぎるのがとても早く感じます。

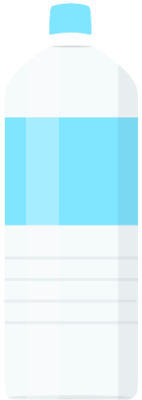
４．活動連携の効果
（１）ホッとST×クールST

「今年の夏は猛暑日が多くなる・・・。」そんな情報が行きかう６月に、ホッとステーション実行委員会が行われました。その中で、「熱中症防止対策として「クーリングシェルター」として公共施設等を活用する動きがあるが、官民協同で行っている居場所（ホッとステーション）を夏季限定の「避暑場所」として位置付けられれば、地域の方々にとってもわかりやすく、かつ気軽に利用できる場所になりえるのではないか」という提案があがりました。

良い提案は、すぐに形となり、わずか２週間程度でおおよその仕組みが完成し、熱中症防止備品はホッとステーションの連動事業である「フードバンクさんぶ」とのコラボレーションによって、飲料水などの物資を確保することになりました。

ホッとステーションが、夏季限定「クールステーション」として位置付けられたことで、「居場所」の存在意義は、大きく跳ね上がったと思います。

89機関
が協力してくれています。



※「クーリングシェルター」とは、熱中症による人の健康に係る被害の発生を防止するため、市町村が指定した施設で、「熱中症特別警戒アラート」が発表されたときなど、一般に開放し、暑さをしのぐ場所という意味です。

４．活動連携の効果
（２）ホッとST×子ども食堂（ちいき食堂）

ちいき(子ども)食堂は年間を通して定期的な開催を行っています。
最初は小さな形から始まりましたが、ホッとステーションのネットワークが出来上がり、少しずつ協同機関が増えていくにしたがい、ちいき（子ども）食堂への関心が広がりました。
開催時には共に出店して、地域の方とのかかわりを増やしたいとの声も上がる様になりました。
１事業所の参加からスタートして、開催ごとに事業所が増えていきました。今では、開催前の実行委員会では様々な事業所の方が参加して色々な意見や想い、今後の活動について話し合いながら進めています。
活動への参加だけではなく、開催時には来場いただいて盛り上げていただく事業所の方々も増えました。
ホッとステーションを通して、ちいき(子ども)食堂への関心や興味、そして参加へと繋がる事で事業所間のつながりだけでなく、地域の方々へも色々な情報をお伝えできる場としての役割も果たせていると思います。

子ども(ちいき)食堂開催回数

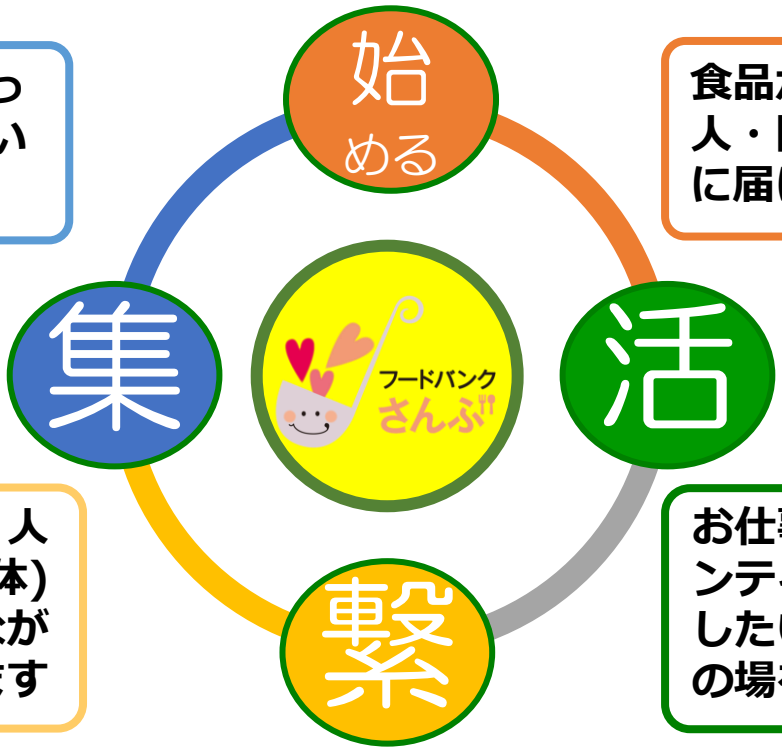
2022年度
- 実施回数：21回
- 参加者数：約1,995人

2023年度
- 実施回数：34回
- 参加者数：約3,570人

4．活動連携の効果
（3）ホッとST×フードバンクさんぶ

企業・家庭で余った食品をご寄贈いただきます

食品が必要な人・団体・施設に届けます



活動を通じて、人と人・企業(団体)間・地域がつながる活動となります

お仕事訓練・ボランティア・何かをしたい人への活動の場を提供します

フードバンク食料受取・提供回数

	2022年度	2023年度
受取回数	24回	108回（5．6t）
提供回数	74回	219回（3．3t）

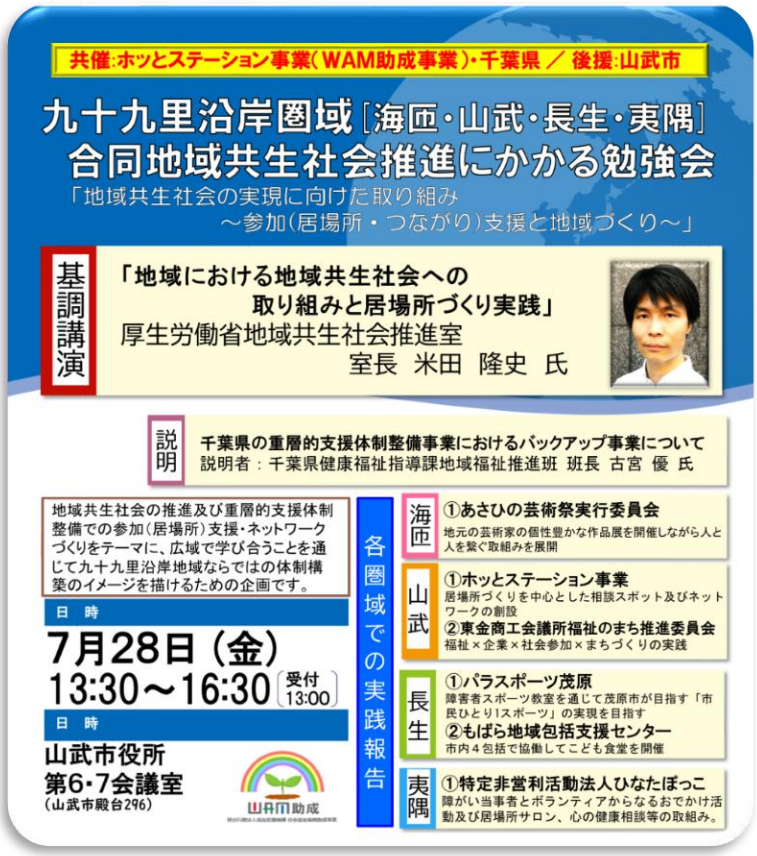
ホッとステーション及びフードバンクさんぶのホームページをリニューアルしたことで、情報を伝えやすくなりました。まだまだ、フードバンクのことを知らない方も多くいです。活動を伝えることで、理解と協力を促せるツールができたことは、活動の活性化につながります。　今年度は、地域の３つの中学校からエシカル教育の一つとして「フードロス」の大切さを伝えるゲストスピーカーとして教育現場でお話する機会をいただきました。そして、学校全体でフードドライブを開催してもらうことができました。

また、食料品寄付募集活動である「フードドライブ」も、いくつかのホッとステーション協同機関に協力していただくことができ、活動が発展してきています。ホッとステーション×フードバンクさんぶ活動の相乗効果が生まれています。

5-1．九十九里沿岸地域合同勉強会

千葉県内の九十九里沿岸4圏域（海匝,山武、長生、夷隅）の中核地域生活支援センター合同で、厚生労働省、千葉県の担当者を招き、「地域における地域共生社会への取り組みと居場所づくりの実践」について各圏域の実践報告を行いました。74名のご参加をいただきました。

山武圏域からは、「みんなの心のよりどころホッとステーション」の実践報告を行いました。厚生労働省の担当者より、市民レベルで取り組みが出来ている事に感銘を受けたと評されています。



5-2．ホッとつながるフェスタ２０２３

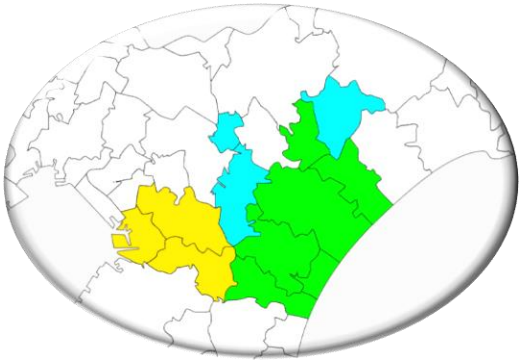
毎年恒例として認識されてきた、「ホッとつながるフェスタ」を今年も開催いたしました。合計１２０名もの方々にお越しいただけました。テーマを「**食と居場所でつながる地域づくりとSDGs**」として、千葉商科大学人間社会学部の小口さんにご講演いただきました。クロストークでは、ニーズに対応した地域づくりについて活発に意見交換することができました。

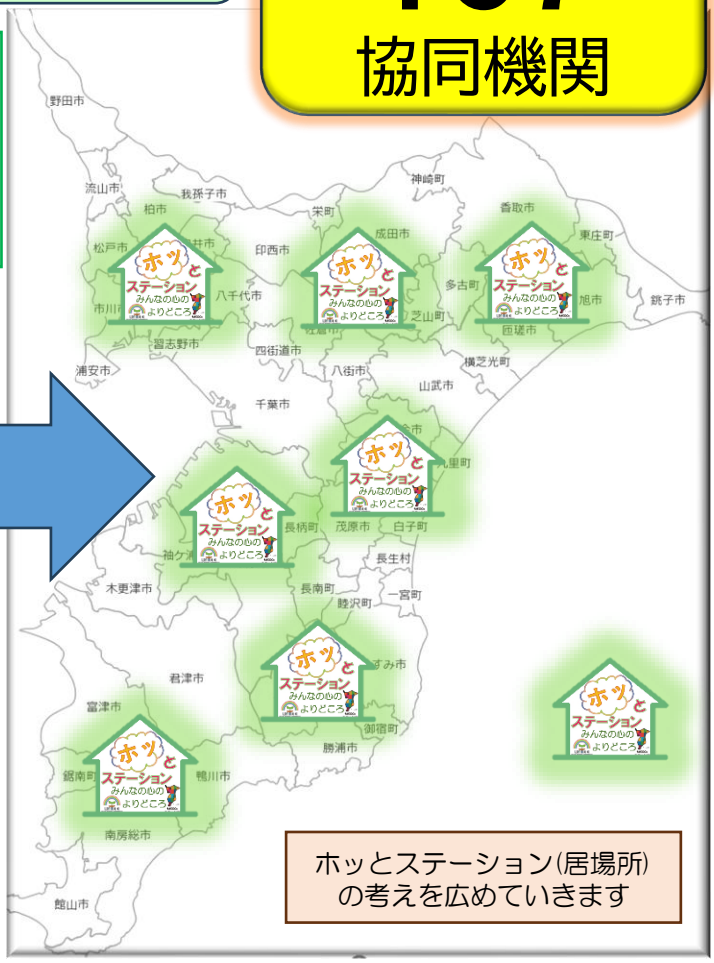
今後も、地域の定例イベントとして定着させていきたいと思います。

6-1．活動の広がり
～「さんぶ」から「千葉県全域へ」～

2023年度末
107
協同機関

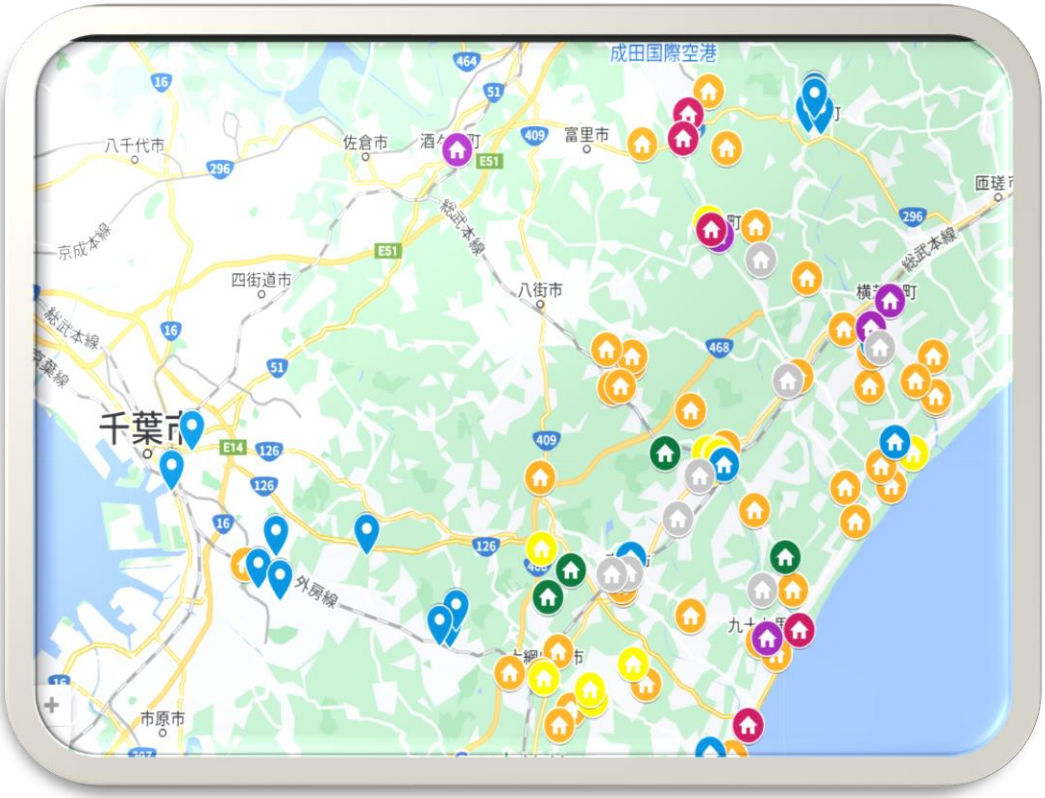
「山武郡市＋近隣圏域」の取り組みを**「千葉県全域」**に拡充予定！





2022～2023年度の2年間は「山武郡市(3市3町)」を中心とした周知活動を中心に行ってきました。
2024年度以降は地域を広げてホッとステーション事業を全県下への拡充に向けて取り組んでいきたいと考えています。

6-2．ホッとST一覧・分布図(マップ)



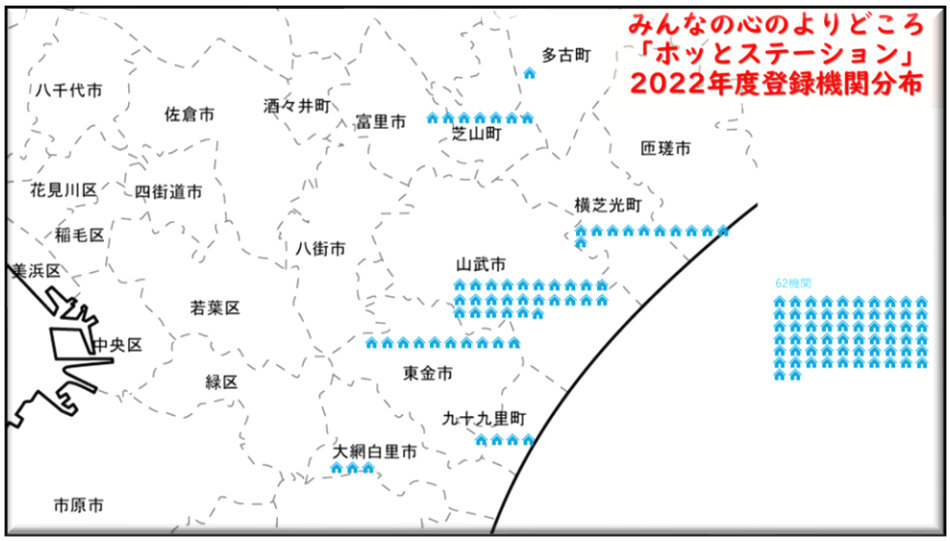
ホッとステーション居場所登録地

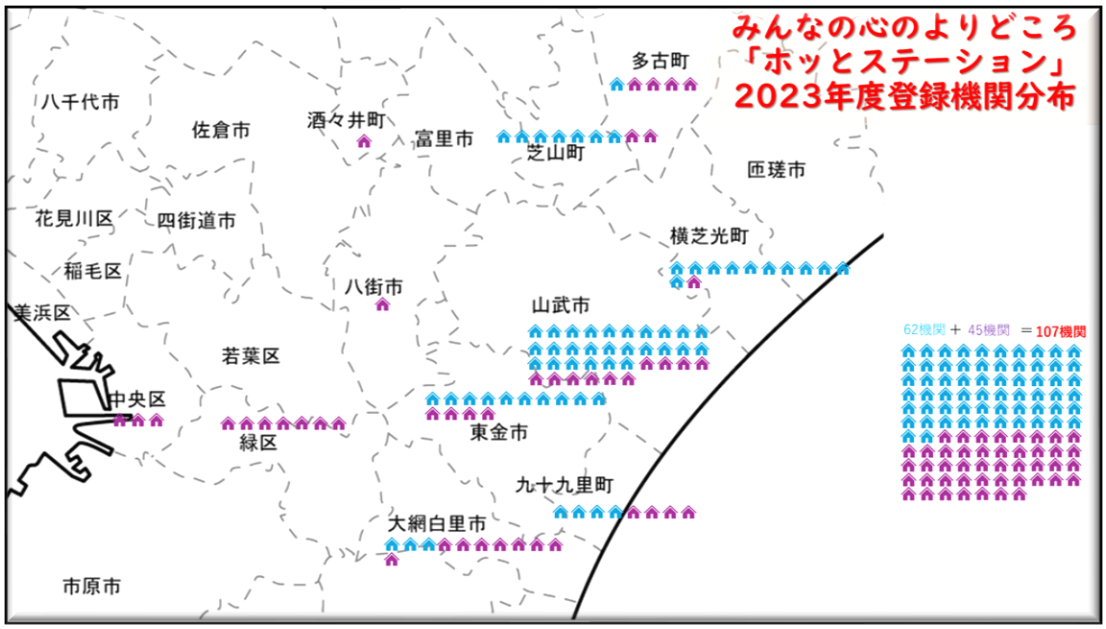
山武郡市・印旛郡市・香取郡市、千葉市などのいたるところに設置してもらっています。私たち自身にとって過ごしやすい居場所を、地域を作り、広げていきたいと考えています。

本事業の効果分析

城西国際大学　福祉総合学部　森山拓也

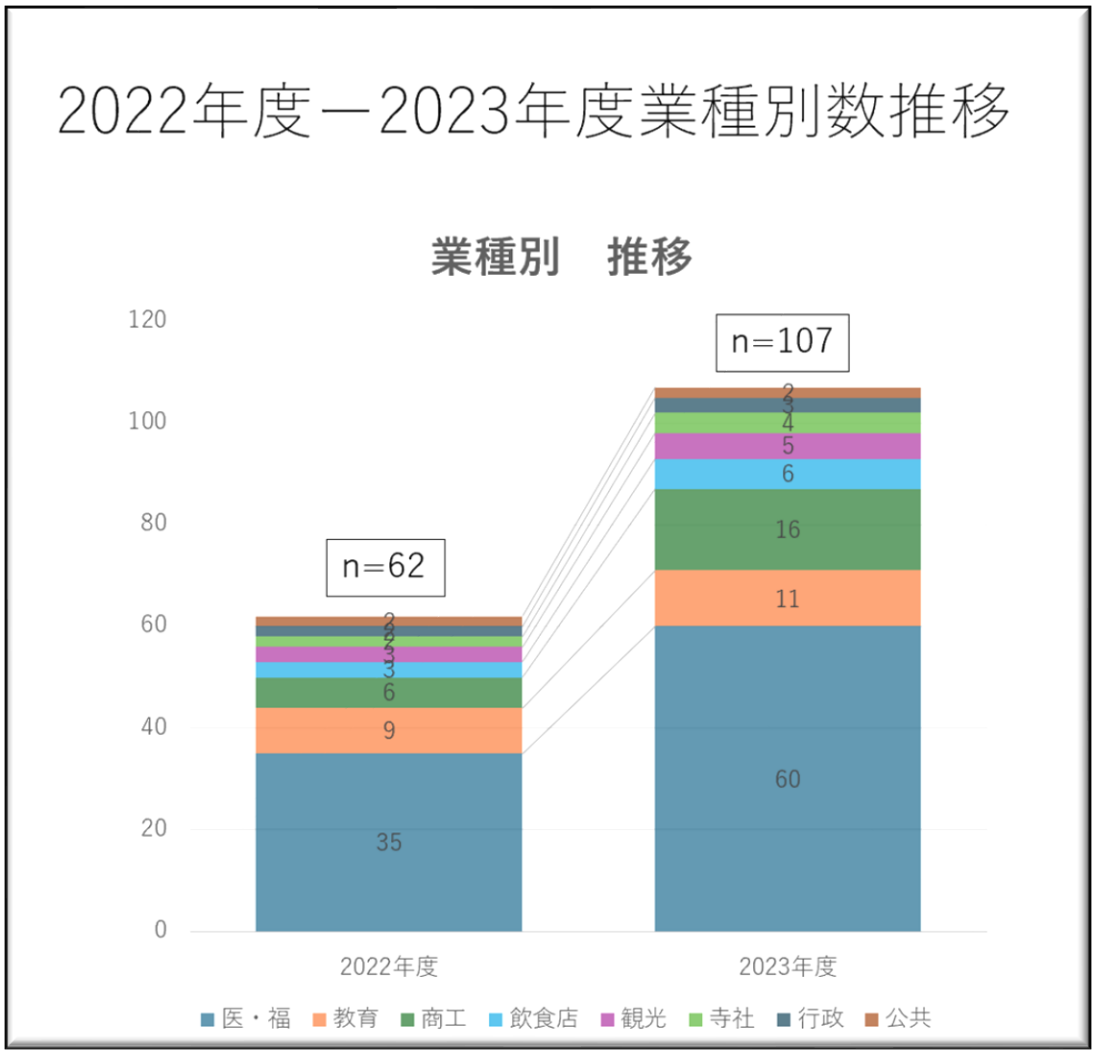
7.ホッとステーション活動の外部視点からの分析・評価　②

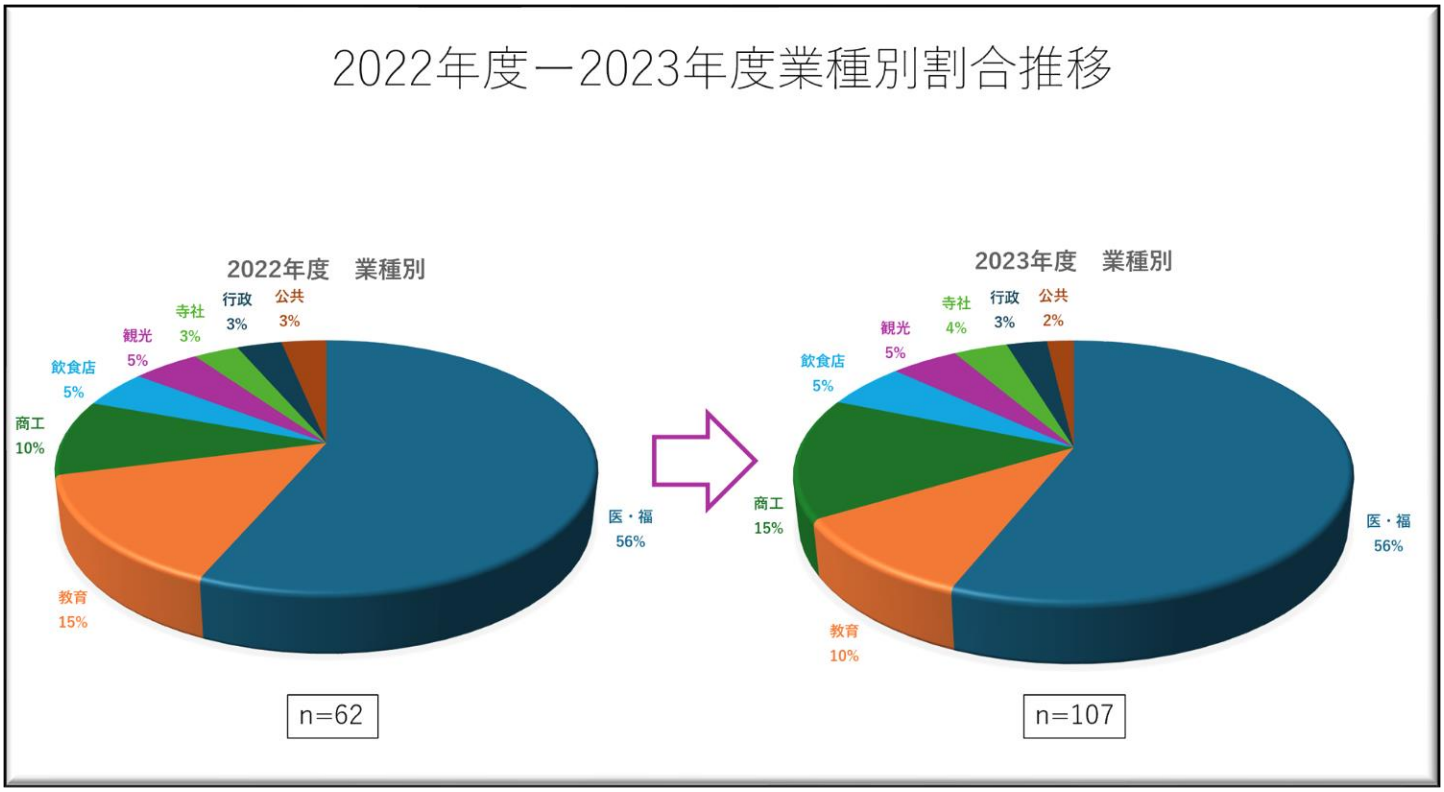




7.ホッとステーション活動の外部視点からの分析・評価　③

2022年度ー2023年度業種別事業所数・業種別割合推移

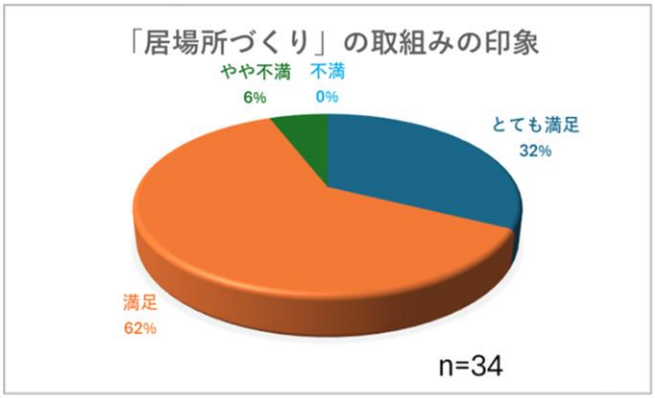




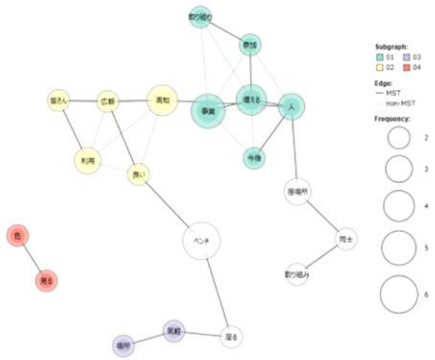
7.ホッとステーション活動の外部視点からの分析・評価　④

協力機関へのアンケートより

「居場所づくり」の取組みについての印象



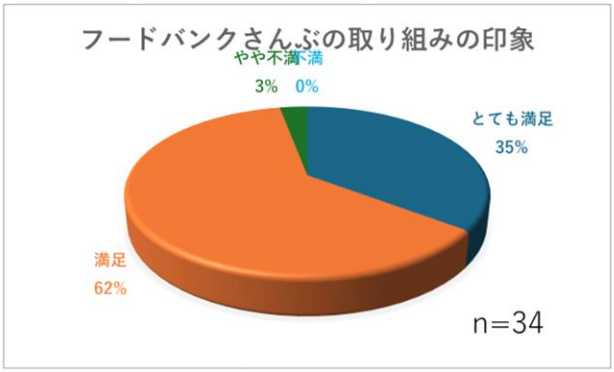
自由記述欄の共起ネットワーク



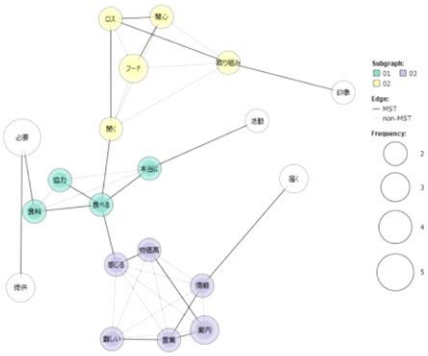
本事業の地域の皆様に気軽に立ち寄れる居場所を創り、顔の見える関係を創ることで、社会との接点と地域交流を広げる取り組みとして、登録事業所が増え、のぼりやベンチ等が目印となり、事業参加者の仲間意識が醸成されてきた。
一方で、本来の居場所を市民が活用するという点に関して、より広報周知が必要であると参加事業所でも課題を感じていることが明らかとなった。

協力機関へのアンケートより

フードバンクさんぶの取り組みの印象



自由記述欄の共起ネットワーク

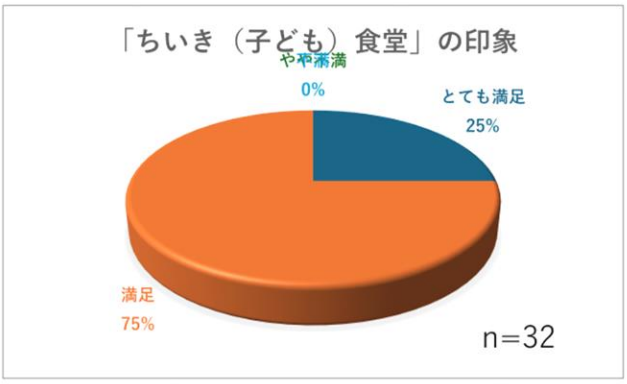


協同事業所の協力を得ながら、個人、会社、団体等からの寄付をいただき、必要とされる世帯や機関150カ所以上に2.5トン以上の食料を提供した。またフードロスなど食にまつわるSDGsの問題についても取組み、関心を高める働きかけを行った。多様な子供達や消費者へアプローチを工夫しながら取り組まれており、関心が高まる事は、フードロスの問題解決への糸口になると思います等、好評であった。一方でこちらも周知の課題を抱えており、良い活動だけに情報がもっと広く届く工夫を課題として挙げられていた。

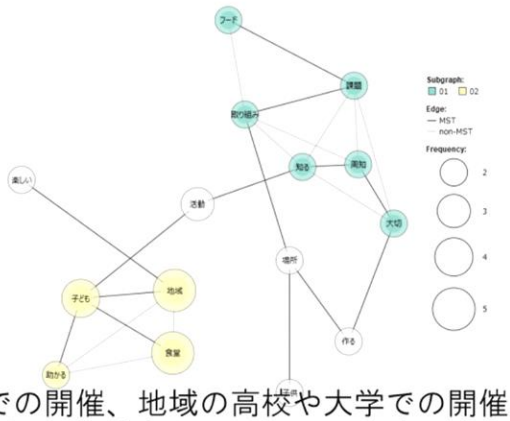
7.ホッとステーション活動の外部視点からの分析・評価　⑤

協力機関へのアンケートより

「ちいき（子ども）食堂」の取組みの印象



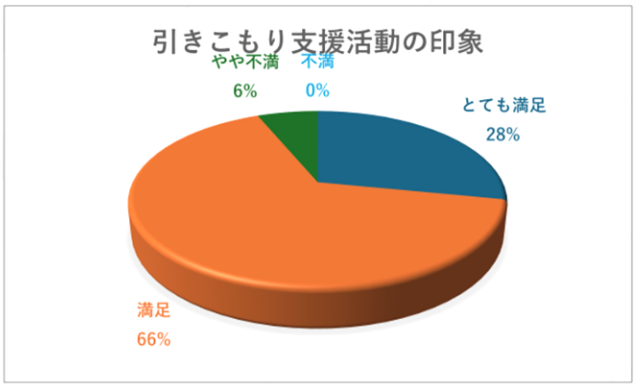
自由記述欄の共起ネットワーク



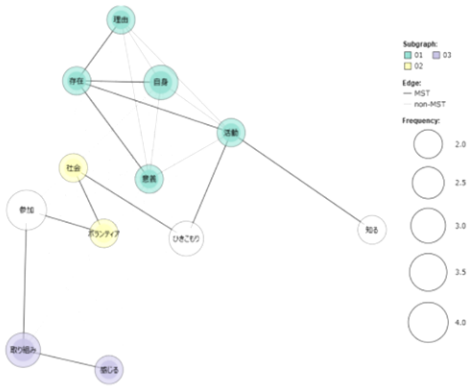
本事業を協同事業所との合同開催や地域イベントでの開催、地域の高校や大学での開催、などで35回以上の開催など、大勢の地域の方や学生が活動に参加した。子ども食堂は全国的に広がりを見せており、地域にとって重要な活動だという認知が高まっている。また地域の横のつながりを作って行く為にも、継続が求められていた。一方でより多くの方に参加してもらえるように周知の仕方など課題も指摘された。

協力機関へのアンケートより

引きこもり支援活動の印象



自由記述欄の共起ネットワーク



本事業を活用してもらうことで、社会交流の機会を作り、ひきこもり傾向のある方を、ちいき（子ども）食堂やフードバンク活動等のサポーターとしての参加や、事業所のスペースを開放して、自由に気兼ねなく過ごせる場所を提供した取り組み。この取り組みは意義のある活動であることは伝わっているが、実際にどのような取り組みが実施されているのか、サポートの仕方などの周知が求められている。

総合評価と今後に向けて

協同機関の広がりは、本事業が市町村単位ではなく、広域を対象とした事業・複数の活動を連携させて実施する事業という方向性に沿った形での広がりを見せているといえる。特に居場所づくりは多くの機関の理解を得て着実に広がりを見せている。

一方で、孤独・孤立、ひきこもり、生活困窮者、就労・居場所等にかかる活動自体を社会資源の一つとして活用する事業という当初の目的に関しては、周知に課題を残していることが明らかとなってきていることから、今後は協同機関の広がりを基盤に、それぞれの具体的な事業について、より具体的なカタチでの実施や周知方法の工夫が求められる。

8．ホッとST協同機関紹介

※協同機関一覧
はコチラ⇨⇨

山武市

○リンク・山武事業所　○グループホームなるとう　○小規模多機能型居宅介護なるとう　○大正寺
○さんむわくわく館　○グループホームはすぬま　○すえひろ工房やまぶき　○さんさんbe
○山武市成東地域包括支援センター　○山武市松尾蓮沼地域包括支援センター　○山武郡市教育会館
○リハビリデイサービス成東○アウィン学習塾・成東校　○山武市山武地域包括支援センター
○(株)池田屋　○デイサービスセンターこころ　○山武市社会福祉協議会　○コミュニティハウスひろば
○山武市社会福祉協議会・山武連絡所　○山武市社会福祉協議会・蓮沼連絡所　○松尾高等学校
○福笑屋珈琲　○特別養護老人ホーム海　○みどり工房　○養青松苑・障害者施設光洋苑　○成東郵便局
○ JA山武郡市緑の風成東店　○(株)LOVES　COMPANY　○コミュニティカフェ　とーえむ
○法宣寺　○法光寺　○蓮沼郵便局　○楽天堂訪問介護　○特別養護老人ホーム北総長寿苑
○(株)住まいの発見館　○ササハラ薬局

東金市

○城西国際大学
○アウィン学習塾・東金校
○地域生活支援センターゆりの木
○サンフラワー
○介護老人福祉施設両総
○東金市東部地域包括支援センター
○東金市西部地域包括支援センター
○おひさま文庫
○ＹＡＳＳＡＷＡＶＥヤッサウェーブ
○東金高等学校
○木原ストアー
○コイノニアコミュニティースペース
○灰吹屋鈴木薬局
○パルシステム千葉東金センター

九十九里町

○山武長生夷隅地域リハビリテーション広域支援セター
○アウィン学習塾・九十九里校　○サンライズ九十九里
○九十九里町・社会福祉課　○九十九里高校
○片貝薬局　○ちどりの里地域包括支援センター
○いわし交流センター海の駅九十九里

大網白里市

○宗教法人円融寺(えんゆうじ)　○小規模多機能かきつばた
○ほほえみの里　かきつばた　○カサ・ロサーダ
○小高モータース　○マリンハウス　○ジョブファーム
○大里総合管理　○大網白里まちづくりサポートセンター
○中華四川料理天正屋　○中村自動車

芝山町

○第２パレット　○芝山町・福祉保健課　○楽天堂そら
○芝山町社会福祉協議会　○老人保健施設二川苑
○空の駅　風和里しばやま　○道の駅　風和里しばやま
○航空科学博物館　○エハラピーナツ

横芝光町

○リンク・まちなか広場えみふる
○ job school.com
○ fu～fu～ cafe
○特別養護老人ホーム吉祥苑
○横芝光町・福祉課（町立図書館）
○放課後等デイサービスきぼう
○アウィン学習塾・横芝校
○茶話処　一休
○(特非）みんなの居場所ありのまま
○健康こども課(健康づくりセンター
　プラム)
○LECJapan
○楽天堂多機能ケア横芝光

千葉市･近隣圏域

○ジェイアールバス関東(株）東関東支店　○あぶらや
○多古新町ハウス　○とらや　○カネムラ　○zido net
○ウイング介護相談室　○なごみ訪問看護ステーション
○フードバンク千葉　○千葉市生活自立仕事相談センター緑
○社会福祉法人うぐいす会からは～い
○ほかほか介護おてんとさん　○デイサービスおてんとさん
○キッズルームおてんとさん　○交流拠点施設げんき館
○障害者支援施設コスモスビレッジ
○訪問看護ステーションひとみ

資料1

地域の皆様向け
ホッとステーション
WAM助成
独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
チーバくちばSDGsパートナー191号
誰もが気軽に立ち寄れる場所です！
どんなところにゃ??
困った事も聞いてもらえるにゃ??
一部の機関では、相談できたい物資支援等も受け取れます！
もちろん！疲れた時の一休みが出来ます！！
・いろいろな地域の機関・団体・店舗が「可能な範囲」でゆっくりできる場所、誰でも気軽に立ち寄れる「居場所」を提供しています。どうぞご利用ください！！
・令和5年3月現在69か所に設置しています。
このマークが目印！
ホッとステーション みんなの心のよりどころ
ベンチ
のぼり旗
ステッカー
夏限定
クールステーション
クールステーション 始めました
涼んだり、水分補給できます。
熱中症予防協力店
法人HP・QRコード
Instagram
質問等お気軽にお電話ください！お待ちしています。
問い合わせ先：特定非営利活動法人リンク
ＴＥＬ：　0475-77-7531
携帯：　080-2597-3637

資料２－１

みんなの心のよりどころ「ホッとステーション」事業における 2年目の事業分析とその評価

城西国際大学福祉総合学部
森山拓也

みんなの心のよりどころ「ホッとステーション」事業は、生活のしづらさを抱えた方（孤立・孤独、不登校・ひきこもり、生活困窮者、就労困難者、障害者、高齢者等）や地域住民誰もが、身近な地域で気軽に安心して過ごせる地域社会の実現を目的として、山武圏域を中心に千葉県内のいたるところで『気軽に居てもいい』居場所（ホッとステーション）を作り、その中で相談スポットやボランティアができる場所、ちいき（子ども）食堂やフードバンク活動等を広めることを通して、山武圏域の協同機関のネットワークを構築することで、平時の地域情報共有や機関相互のPR・発災時の協力体制の確保が図れるネットワークを構築する事業である。

1. 事業に対する声（年度末アンケートより）

1)『気軽に居てもいい』居場所（ホッとステーション）作り

ホッとステーション事業は、地域の皆様に気軽に立ち寄れる居場所を創り、顔の見える関係を創ることで、社会との接点と地域交流を広げる取り組みを行ってきた。登録協同機関は、1月末現在で105カ所となった。今年度は、夏季限定のクールステーション事業も開始して、それぞれの協同機関のできる範囲で協力をいただいた。

「待ち合わせ場所にして集まったりとかして、ここから遊びに行くようなことがあったり、話をしていたりということを見かけることができました　そういう意味で人をつなぐという中で居場所になっている。」「館（施設）に入るには勇気がいるが、ベンチは気軽に座ってもらえるのでベンチをきっかけに会話をし、ひととのつながりが持てるようになった。」「子供たちだけではなく、買い物帰りの高齢者が一休みに使う。」「ベンチは横に座り同じ方向を向いて同じ景色を見てなんかホッとする。」「ホッとステーションベンチをお借りしたことによって土日でも皆さん　ここに座ってゆっくりされてたり、　それからいつだったか怪我をされた方がここまで来ればベンチがあるからってそこで少し休ませてもらおうって言ってここで休んでいたこともあります。　そんな感じでみんなが気軽に立ち寄れる場所になったと思います」「居場所が増え、人と人とが繋がる機会を創出する意義は大きいと考えます。」「今後も事業の維持、拡大を期待しています。」等、主にベンチ設置による居場所作りの効果が表れている。

一方で「皆さんへの周知が不十分でご利用がされないので、各市の広報や地区の回覧板を利用してもっと皆さんへお知らしたらどうか」といった提案もある。

2)「ひきこもり支援活動」の取り組み

ホッとステーションを活用してもらうことで、社会交流の機会を作り、ひきこもり傾向のある方を、ちいき（子ども）食堂やフードバンク活動等のサポーターとして参加してもらった。また、機関のスペースを開放して、自由に気兼ねなく過ごせる場所を提供して利用してもらうなどの取組みを行っている。

「とてもいいと思います」「サポートについいて、他社の活動内容を知りたいです」「活動についてよくわかりませんが、フードバンクでは本当に必要な方の所へ届いているのか疑問です」「ひきこもりの子どもとボランティアへのサポーター参加による社会参加の機会をマッチングするのは素晴らしい取り組みだと感じました。」等、活動に対しての意義や必要性は語られている。

しかし、一方で「詳しくは知りません。」「この取り組みには十分な参加が出来ていないので残念です。」と活動自体の周知が課題である。

3)「ちいき（子ども）食堂」の取り組み

「ちいき（子ども）食堂」を協同機関と合同開催したり、地域のイベントに積極的に参加しています。地域の高校や大学での開催、ホッとステーション協同機関などで35回以上の開催するなど、大勢の地域の方、学生が活動に参加した。みんなで集って食べる楽しみの再発見や、食事にお困りの方へ食の楽しみを提供してきた。

「私の近所の子ども食堂には、ホッとステーションののぼりやステッカーが無いようです。子ども食堂にも置いてくれるといいです。」「積極的に取り組まれているので、必要とする子供たちがいつでも食堂へ立ち寄れる場所を作ってあげられたらいいと思います。」「子ども食堂と合わせ、高齢者の食事支援と居場所もあると良い。」等、子ども食堂についても活動の意義や必要性についての理解は得られている。

一方で、「詳しくは知りません。」「子ども食堂は全国的に広がりを見せていると思います。地域にとって重要な活動だと思います。」「取り組みは色々な所の活動を伺っていますが、山武市のどこにそのような場所があるのか我々も知らないでいます、周知活動をお願いします。」「子供が少ない地域でどれくらいのニーズがあるのでしょうか。」等、こちらも取り組みに関する周知が課題といえる。

4)「フードバンクさんむ」の取り組み

協同機関の協力を得ながら、個人、会社、団体等からの寄付をいただき、必要とされる世帯や機関150カ所以上に2.5トン以上の食料を提供しています。フードパントリーでは、必要な方への提供のほか、フードロスなど食にまつわるSDGsの門題についても取組み、関心を高める働きかけを行っている。提供を受けた機関では「フードロスの課題への対応とつながりが素敵な取り組みとなっています。」「フードバンクとしてのお野菜の提供にはとてもうれしく思いますし、お届けした方からもうれしいお声を頂いております。」と好評である。

一方で「詳しくは知りません。」「もう少し発信していただけたら良いと思います。」「お米を少し提供しました。ただどのような仕組みなのか宣伝をしているのかわかりません」「大網まで(情報が)届かないのか。」「よくわからないという印象です。」といった声がアンケートでも聞かれ、取り組み自体の周知が課題となっている。

5)そのほかの取り組み

(1)SNSの活用

LINEWORKSを活用して、それぞれの機関のイベントや事業紹介などを発信、受信を行い、協同機関同士の情報交換に取り組み始めた。まだLINEWORKSへの登録機関数が少ないが、今後登録者数が増えることによって、災害時など緊急時にもつながるツールとしての活用が見込まれる。

(2)協同機関のマップ化

グーグルマップ上で協同機関が把握できるマップ化を検討している。今後の活用として、そのマップに写真や説明などの情報を加えていくことで機関の取り組みなどが視覚化され、地域のコミュニケーションの促進につながることが見込まれる。

2. 事業の評価

1)事業協同機関の拡大

初年度は本事業を関係機関に知ってもらうことを目標として62機関が登録された。2年目である今年度は、45機関の登録が加わり合計で107機関となった。市町村別でも千葉市中央区、千葉市緑区、八街市、酒々井町に新たな共同機関の登録が増え、山武市を中心に同心円状に増加している。また、初年度に登録のあった山武市や東金市などの中心的な地域でも登録共同機関が増加している。業種別でもおおむね比率は変わらずに推移しているが、商工関係の機関数が3倍に増えるなど、医療福祉関係だけでなく一般企業にも共同機関が増えている。

これら協同機関の広がりは、本事業が市町村単位ではなく、広域を対象とした事業・複数の活動を連携させて実施する事業という方向性に沿った形での広がりを見せているといえる。

2)事業協同機関拡大の要因

(1)のぼりやベンチの設置による機関同士の連携強化

協同機関の実行委員会やアンケートからも「街中でベンチを見かけることが多くなった。」「街でのぼりを見ると仲間意識の様なものを覚えます」「ベンチが緑で目立つ。ここにも置いてあるんだとよく見かけるようになって、変な仲間意識ができた。当初私の機関ではベンチを設置していなかったが、見かけると設置したくなった。」「運営者同士の横のつながりを作るのは大切なのでとても大事な取り組みだ」といった声も多く、のぼりやベンチ、ステッカーといったものがランドマークとなり、機関同士の仲間意識や連帯感が醸成されている。

(2)具体的な事業による参画しやすさ

今年度の協同機関登録が増えた要因の一つに「クールステーション」事業があげられる。

「クールステーション」は夏季限定の避暑として活用できる場を提供する取り組みである。2024年春に施行する方針の改正気候変動適応法で、「熱中症特別警戒アラート」が発表された場合に、公共施設だけでなくショッピングセンターなどの民間施設の冷房が効いた部屋を「クーリングシェルター」として事前に指定して開放することを自治体に求めているものである。山武市においても市内4カ所の公共施設に「ひんやりスポット」を開設したが、それと同時期に同様の目的で施設を開放提供するという官民一体となった本事業展開は、今まで心の居場所のイメージが付きにくかったが、猛暑日の避暑場所という具体的な取り組みを提示することにより協同機関増加につながったと考えられる。

3)2年目の本事業について

協同機関の広がりは、本事業が市町村単位ではなく、広域を対象とした事業・複数の活動を連携させて実施する事業という方向性に沿った形での広がりを見せているといえる。特に居場所づくりは多くの機関の理解を得て着実に広がりを見せている。

一方で、孤独・孤立、ひきこもり、生活困窮者、就労・居場所等にかかる活動自体を社会資源の一つとして活用する事業という当初の目的に関しては周知に課題を残していることが明らかとなってきていることから、今後は共同機関の広がりを基盤に、それぞれの具体的な事業についてより具体的な形での実施や周知方法の工夫が求められる。

１０.事務局・発行元情報

WAM助成
独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

SNS・HP関係

ホッとステーション／マップ	フードバンクさんぶ	ホッとSTインスタグラム	寄附・協賛金募集
		HOTTO_ST.3637	

ホッとステーション事務局・発行元

≪特定非営利活動法人リンク≫
❖中核地域生活支援センターさんネット　／　❖障がい者グループホーム支援事
❖さんぶ相談支援センターリンクサポート
［生活困窮者自立支援事業（山武郡・県）　／生活困窮者家計改善事業（山武郡・県／山武市）］
❖あいリンク[生活困窮者就労準備事業]（山武郡・県）
❖生活自立・仕事相談センター・緑（生活困窮者自立支援事業・千葉市）
❖子どもナビゲーター緑（千葉市）
❖横芝光町スマイルキッズ（子ども第３の居場所づくり事業）
❖よろず相談支援センターぬくもり（特定相談支援事業・一般相談支援事業・障害児相談支援事業）
❖グループホームぼんぼら（共同生活援助事業）　／　❖はれはれ（日中一時支援）
❖多分野多職種連携活動ゆるネット　／　❖ホッとステーション事業（WAM助成）
❖フードバンクさんぶ　／　❖ちいき食堂ほのん　／❖心のいずみ　／　❖ひきこもり支援事業　他

≪法人所在地≫
〒298-1345千葉県山武市津辺252-1
電話0475-77-7531　FAX0475-77-7538
Email　info@npo-link.jp